

飲食業

回答企業19企業

概況



～業況判断D I 値 全項目で大幅改善～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比57.9ポイント上昇の47.4と改善し、前回調査予想値(10.5)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で26.3ポイント上昇の57.9、売上数量が36.9ポイント上昇の63.2、利益でも26.3ポイント上昇の42.1と全項目で大幅改善となった。

新型コロナウイルス感染症の5類への緩和が影響し、飲食店での小宴会・個人客はコロナ禍前に戻りつつあり、業況は大きく改善した。仕入価格・光熱費等の上昇に伴う価格転嫁も少しずつ進んでおり、収益も改善されている。

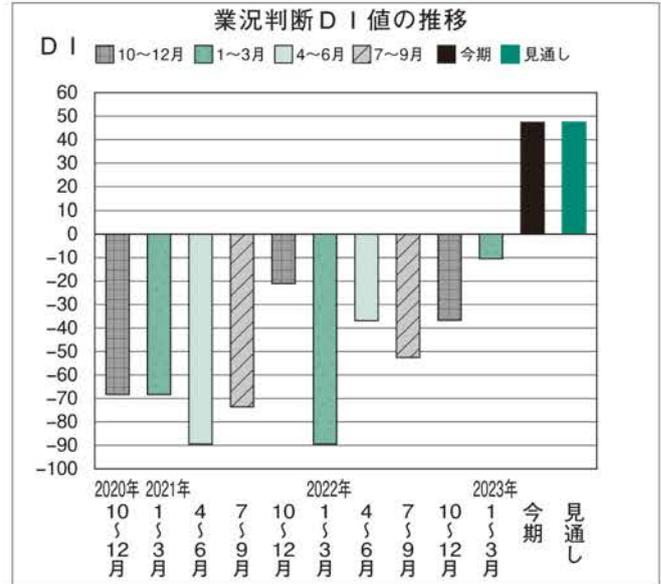
来期の見通し



～総合的業況判断では横ばいの見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比0.0ポイントで47.4と横ばいの見通しである。項目別では、売上・受注で5.3ポイント低下の52.6、売上数量が10.6ポイント低下の52.6、利益でも10.5ポイント低下の31.6と全項目で悪化の見込みとなった。

夏祭りや季節要因から売上増加見込めるものの、仕入価格の上昇、光熱費等の値上がりにより利益については不透明感があり、総合的には横ばいの見通しとなった。



不動産業

回答企業9企業

概況



～業況判断D I 値 改善で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比22.2ポイント上昇の22.2と改善したが、前回調査予想値(33.3)は下回る結果となった。

項目別では、売上・受注で22.2ポイント上昇の44.4、売上数量が33.3ポイント上昇の44.4、利益では44.4ポイント上昇の44.4と全項目で改善となった。

新生活に向けて契約件数が増加しており、賃貸契約物件の動きが活発に推移している。また、価格高騰により建売物件への問い合わせが多く、総合的業況は改善となった。

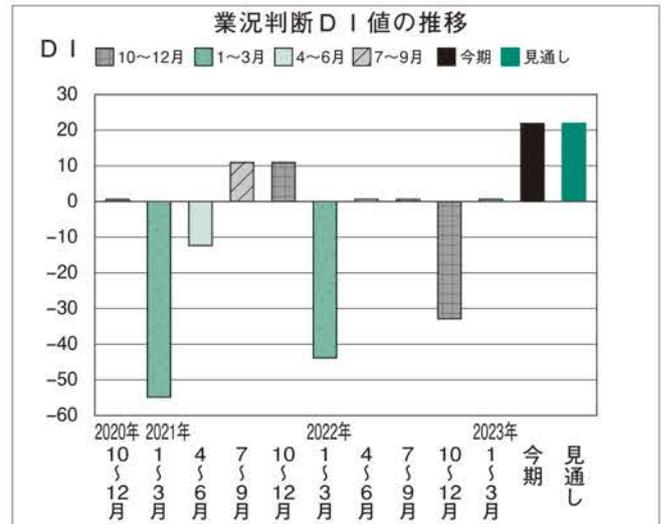
来期の見通し



～総合的業況 横ばいの見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比0.0ポイントで22.2と横ばいの見通しである。項目別では売上・受注で33.3ポイント低下の11.1、売上数量が33.3ポイント低下の11.1、利益でも22.2ポイント低下の22.2と全項目でやや悪化の見込みとなった。

来期は、今期に比べ業況は落ち着く時期となる。物件価格は高騰しているが、総合的業況は横ばいで推移すると見込んでいる。



調査要領

- 調査時期 2023年6月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内291社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」[やや増加(やや上昇)]したとする回答と、「減少(下降)」[やや減少(やや下降)]したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。